

令和6年度 自己評価報告書

学校法人桜丘学園 専門学校ファッションカレッジ桜丘

基準1. 教育理念・目的・人材育成

桜丘学園は豊かな人間性を身につける「人間教育」を重視している。いかに多くの専門的な知識を身につけても、人間的な魅力が無ければ職業人として大成することは叶わない。人間的な魅力を高めるにはいかに多くの友人を作り、コミュニケーションを図ることで信頼関係が醸成され相互に人間的な魅力が高まると思う。学生数が増えたことにより、以前より対人ストレスを感じる学生や教員とのコミュニケーション頻度に不満を持つ学生が増加したように思われる。学期初めの面談より学生個々の特性を把握して、学生満足度を向上させるようきめ細やかに対応した。

基準2. 学校運営

服飾専門学校への進学者が減少する中、ファッション専門課程の在校生数は大幅に増員することができた。またデジタル専門課程の留学生は過去最高の入学者を確保し、収支の黒字化に貢献した。資産運用は生成AI効果により米国市場が堅調に推移し、保有金融資産の上昇による運用益により、黒字化を確実なものとした。令和7年度の学生募集はファッション専門課程、デジタル専門課程ともに本年度を若干下回るが、総在校生数が伸びるため教育事業単独での黒字化実現が視野に入る範囲になった。

基準3. 教育活動

ファッション専門課程ファッションクリエイト科は、昨年同様教員2名体制で臨み、学生に対してきめ細やかな対応に努めた。また、マーチャンダイジングの授業を取り入れることにより、企業でのより実践的なブランドの構築手法、計画性、計数管理など学ぶことができた。選択授業のアイドルプロデュース衣装製作も2年目を迎え、進行スケジュールにも慣れより充実した製作内容になった。デジタル専門課程の留学生は、全般的に日本語の読み書き、会話能力が低く、授業の進行の遅れや、学生間の理解度の差により学級運営に若干の苦労があった。今後の課題としてクラスの学生数、能力別クラス運営の導入等の課題が見えたので、対応を検討する。

基準4. 学修成果

学習成果の可視化の一環として実施している各種検定受験推進は継続している。ファッションクリエイト科が受験するパターンメイキング検定3級、1年生は合格率88%、2年生は全員合格した。1年生の検定に対する前向きな姿勢は継続している。2級は技術科の3年生1名が受験し合格。ファッションビジネス科の1年生のファッション販売能力検定3級は合格率68%、昨年86%から大幅に低下。2年生の2級は合格率54%、昨年の36%から改善した。1年生が受験するファッションビジネス能力検定3級は合格率57%、昨年43%から若干改善。2年生の2級は合格率46%、昨年20%と大幅に改善。同様に低迷している。色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1の合格率は67%、モジュール2は

100%と高い合格率を確保した。産学協同プロジェクトでは、レディスアパレルメーカー株式会社ピーアンドエムと“レディスアパレルのサステイナブルな取り組み”と“ノベルティグッズ提案”の課題に対して、実践形式でリサーチ、検討し9月9日に提案書をプレゼンテーションした。お客様の衣料品や社員の制服の回収、再利用の方法など提案。また、回収した衣料品をトートバックなどにリメイクしてノベルティとして活用するなどアイデアを提案した。現在制服を回収してフリーマーケットで再販し、売上金を寄付する試みが検討されている。

基準5. 学生支援

現状1年生の60%（昨年32%）が奨学金や就学支援制度を必要としている。就学支援新制度に関しては1年生の12名、23%が支援を受けている。年々増加している就学支援新制度に関しては、学園としては認定基準をクリアーして継続して高等教育の就学支援新制度の認定校となり、金銭面での学生の支援体制を充実させることが出来た。また、就職支援に関してもオンライン形式の説明会や面接は学校の施設を開放し、個別対応の面接指導、エントリーシート、履歴書添削などをきめ細かく行い活動の支援を行った。就職決定率は、技術科はアルバイト採用を含め100%（昨年88%）、ファッションクリエイト科、ファッションビジネス科はアルバイト採用を含め84%（昨年100%）、デジタル専門課程の学生は、経営・管理ビザ取得の手続きに入り、母国モンゴルとの貿易の事業を開始する計画で進んでいる。

基準6. 教育環境

パソコンの導入率を引き上げ、どの授業でもパソコンを使用できる体制を整えた。また、新入生全員がIllustrator、Photoshopが使用出来る体制を整えた。Windowsのサポート終了に伴い次年度はパソコンの入れ替えの計画を進めている。ミシン等の作品製作に必要な機器も増員分を全て購入した。学生数の増加に伴い作業スペース的に問題を生じたが今後は課題の解消に向けて対策を講じたい。また、次年度は衛生環境の改善の為、校内改修工事を計画している。

基準7. 学生の募集と受入れ

ファッション専門課程ファッションクリエイト科はアイドルプロデュース衣装製作のカリキュラムの人気の継続し、若干定員を超え数名の選考で不合格者を出した。ファッションビジネス科は出願者が伸び悩み改善の兆しが見えなかった。デジタル専門課程の1年生は日本語レベルが低いものの1名も退学者を出さなかった。出願状況も150人を超える出願があり安定的に新入生を確保できた。

基準8. 財務

今期は米国内の堅調な景気とAI投資による米国株の好調な推移により想定以上のキャピタルゲインを得た。今後は学生数の増加に伴い、教育事業単体での黒字化が視野に入ってきた為、保有金融資産においてはよりリスクを抑えた、安定資産への資金シフトを進めたい。日本株式のウエイトを下げ、社債を含めオルタナティブ投資のウエイトを上げ、利息や配当による安定収益確保に方針転換を図る。

基準 9. 法令等の遵守

継続して、文部科学省、東京都、千代田区からの通達や情報は、定例の役員会議、教職員全体会議、教員会議の場で常に情報は共有されている。また、日常ではA l r i t C l o u dを活用して迅速に情報を共有するシステムを活用している。学生に対しては金融経済教育を実施し、金融トラブル、カードトラブル、フィッシング詐欺、闇バイトなどに巻き込まれたり、関わらない様に事前に情報提供を行い注意喚起している。

基準 10. 社会貢献・地域貢献

毎年、6月には千代田区の生活環境の整備に関する条例に基づき、毎年6月と11月に実施されている千代田区一斉清掃に参加している。学校周辺を清掃することにより、たばこの吸い殻などポイ捨てなど学生のマナーに対する意識付けに役立てるとともに、当日をドレスコード登校日に指定して、スクールカラーのピンクの服装で清掃活動を行うことで近隣住民や通勤、通学で区内を訪れる方々に環境美化に対する啓発活動を行っている。また、継続して行っているアイドルグループの衣装製作では、再生繊維や残反などを使用して製作し、学生に対してSDGsに関する理解を深めている。